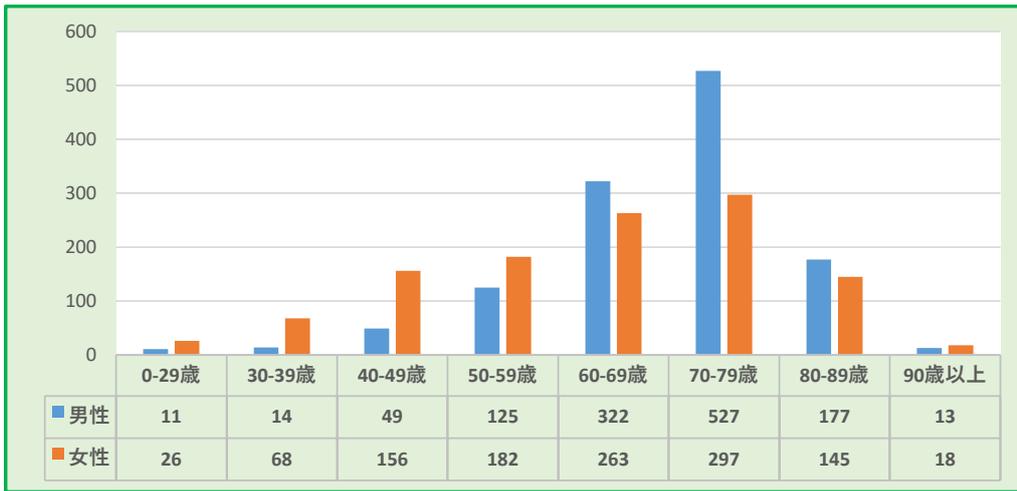
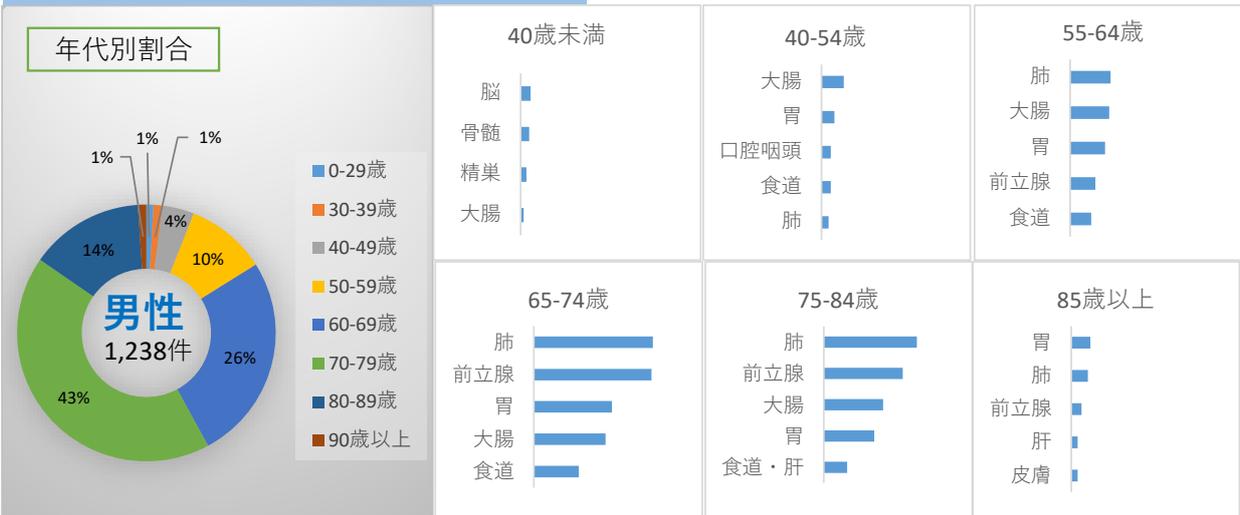


## 男女別登録数-年齢階級別



男性 1,238  
女性 1,155  
合計 2,393

### 年齢階級別登録数の上位5部位 -男性-

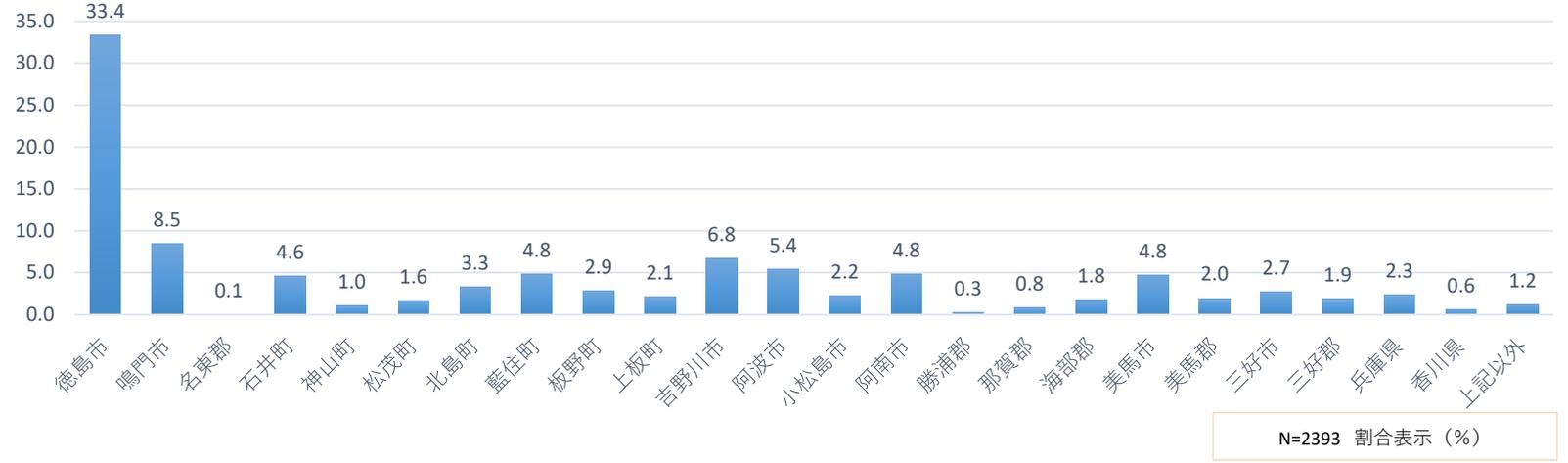


### 年齢階級別登録数の上位5部位 -女性-

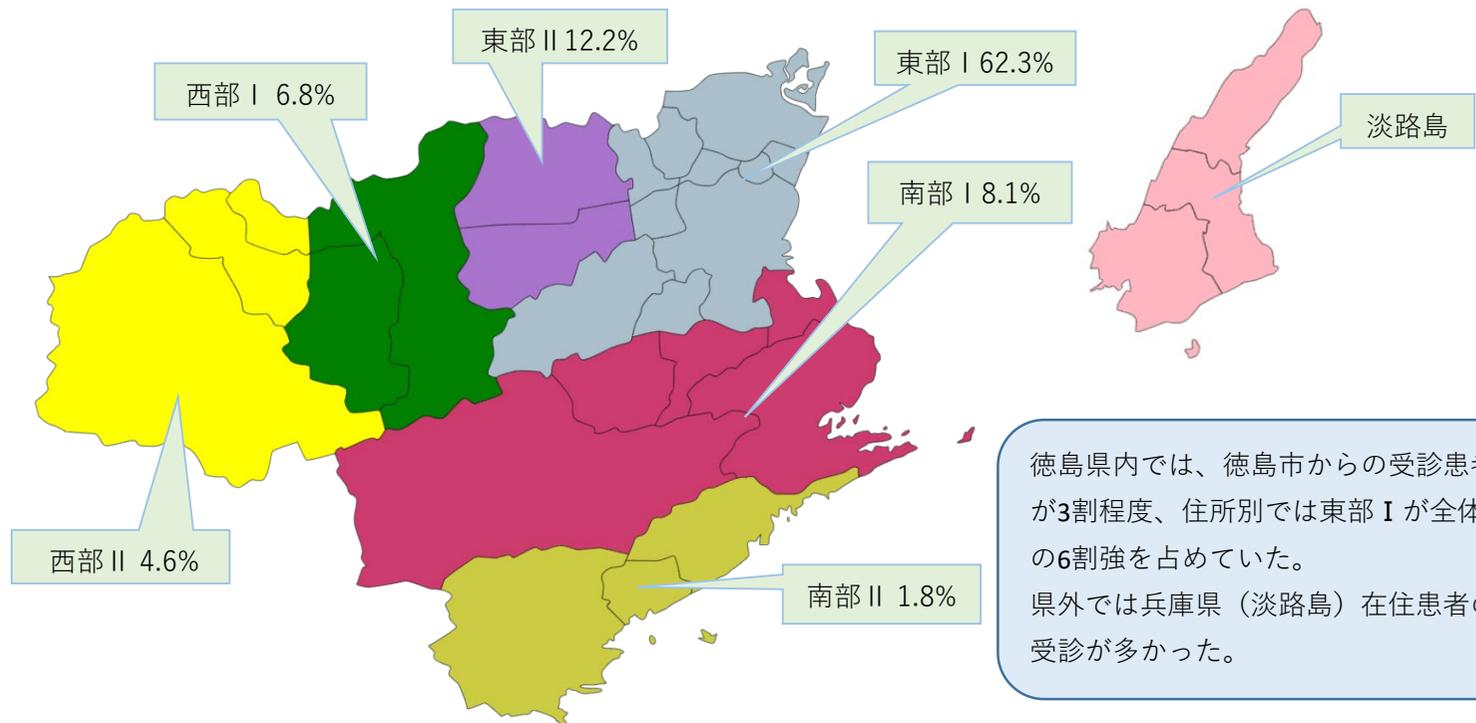


年齢階級別では、男女ともに70歳代が最も多く特に男性は500件を超える結果となった。60歳未満は男性より女性の割合が多い。年代別割合は、男性は60歳代と70歳代を併せると全年代の7割を占めている。部位別では、男性は年齢層が高くなるにつれて前立腺がんの割合が多くなっており、女性の40歳未満では子宮頸がん、40歳以上においては乳房が最も多い。男女とも各性別特有のがんが上位である。

市町村別登録数（上皮内がんを含む）

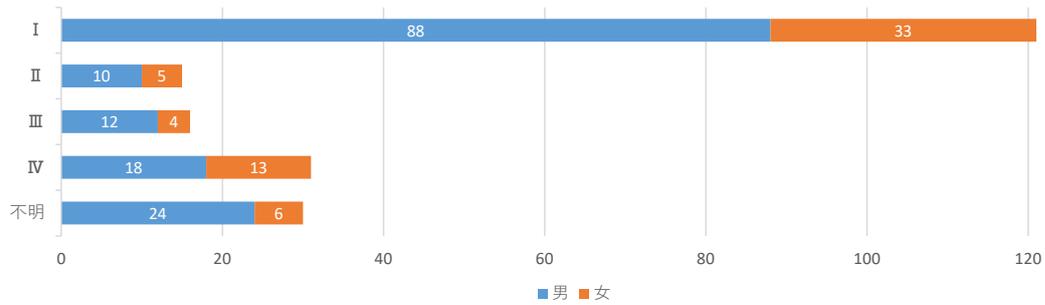


	住所	割合 (%)
東部 I	徳島市	33.4
	鳴門市	8.5
	名東郡	0.1
	石井町	4.6
	神山町	1.0
	松茂町	1.6
	北島町	3.3
	藍住町	4.8
	板野町	2.9
	上板町	2.1
	東部 II	吉野川市
阿波市		5.4
南部 I	小松島市	2.2
	阿南市	4.8
	勝浦郡	0.3
南部 II	海部郡	1.8
西部 I	美馬市	4.8
	美馬郡	2.0
西部 II	三好市	2.7
	三好郡	1.9
県外	兵庫県	2.3
	香川県	0.6
	上記以外	1.2
	総数	100.0

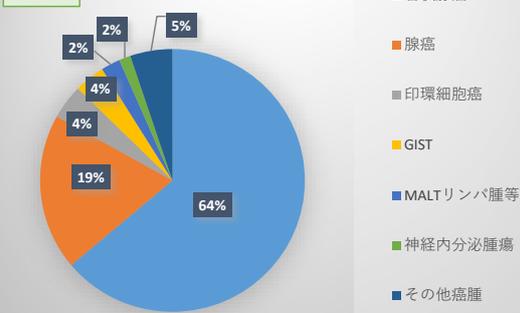


徳島県内では、徳島市からの受診患者が3割程度、住所別では東部 I が全体の6割強を占めていた。県外では兵庫県（淡路島）在住患者の受診が多かった。

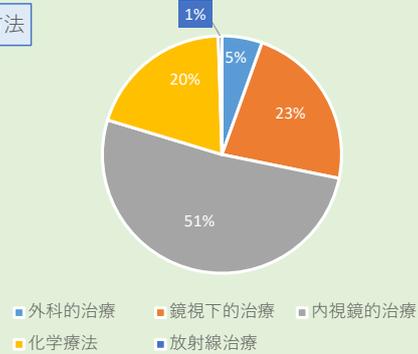
治療前ステージ別登録数



組織型

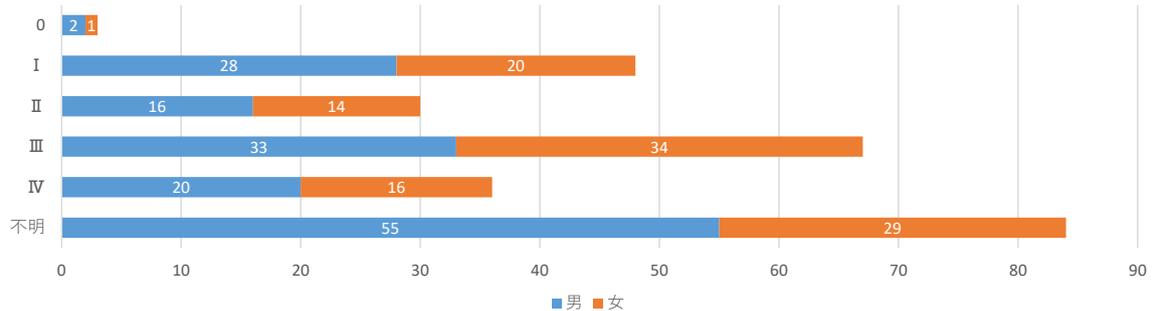


治療方法

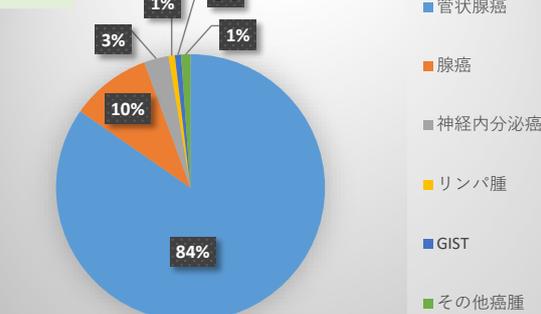


胃がんは、男性152件、女性61件で総数は213件であり、男性が女性の2.5倍であった。ステージ別ではⅠ期が最も多く、また、組織型は管状腺癌と腺癌をあわせると83%であった。治療方法では「内視鏡的治療」が全体の約半数を占め、「鏡視下の治療」「化学療法」についても2割程度実施されている。

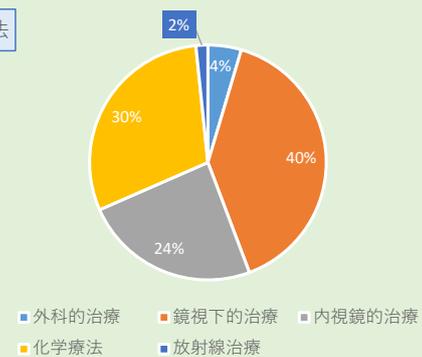
治療前ステージ別登録数



組織型



治療方法

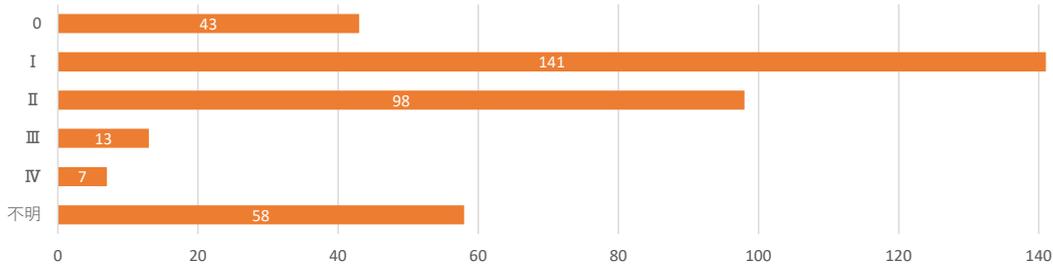


大腸がんは、男性は154件、女性は114件で総数は268件であり、男性が女性の約1.3倍であった。ステージ別はⅢ期が最も多かった。組織型では管状腺癌が84%を占めており、次いで腺癌、神経内分泌腫瘍も少数ではあるが症例があった。治療方法は「鏡視下の治療」が最も多く、次いで「化学療法」「内視鏡的治療」の結果であった。

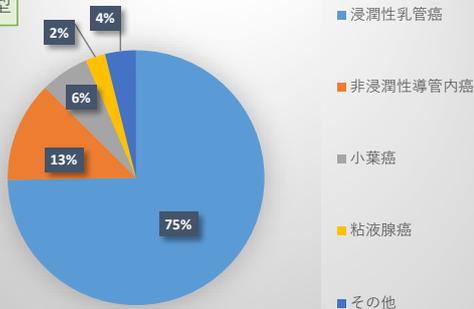
## 2021年症例 - 乳房 -

徳島大学病院

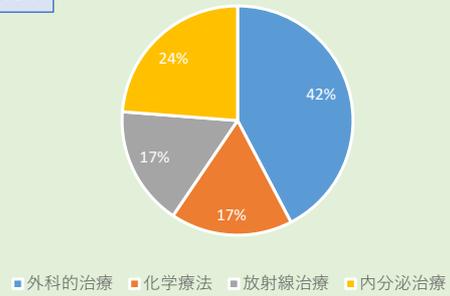
治療前ステージ別登録数



組織型



治療方法



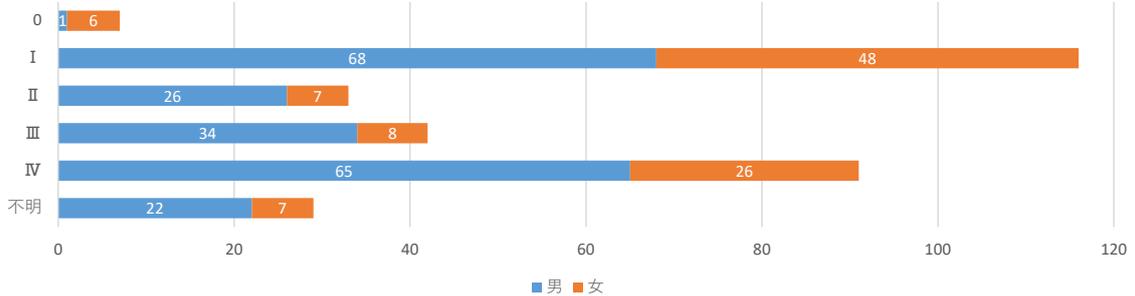
乳がんは、総数360件女性の登録であった。

ステージ別はⅠ期が最も多く、次いでⅡ期が多かった。組織型では、浸潤性乳管癌が75%を占め、次いで非浸潤性導管内癌、小葉癌の症例があった。治療方法は、手術においては「外科的治療」が実施されており「化学療法」「放射線治療」が同数であった。また、「内分泌治療（ホルモン療法）」についても積極的に実施している。

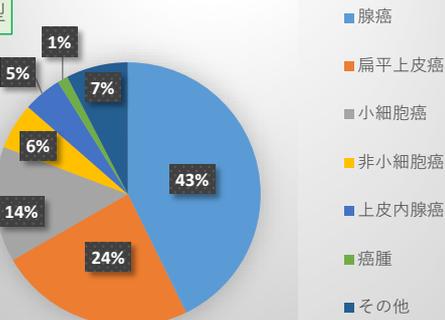
## 2021年症例 - 肺 -

徳島大学病院

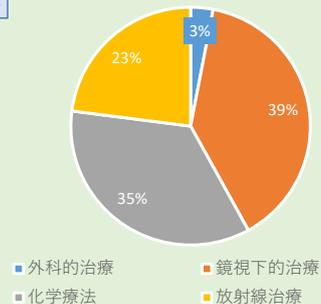
治療前ステージ別登録数



組織型



治療方法

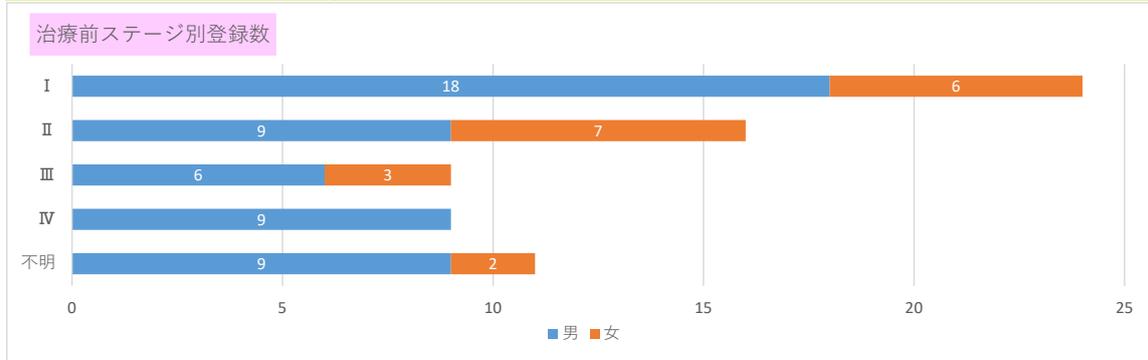


肺がんは、男性216件、女性102件、総数318件であり男性は女性の約2倍であった。

治療前ステージ別登録数ではⅠ期が最も多く、次いでⅣ期の結果であった。組織型では腺癌が全体の4割程度、次いで扁平上皮癌、小細胞癌の症例があった。治療方法は、「鏡視下の治療」「化学療法」が大半を占めており、「放射線治療」も実施されている。

## 2021年症例 - 肝stage別 -

徳島大学病院

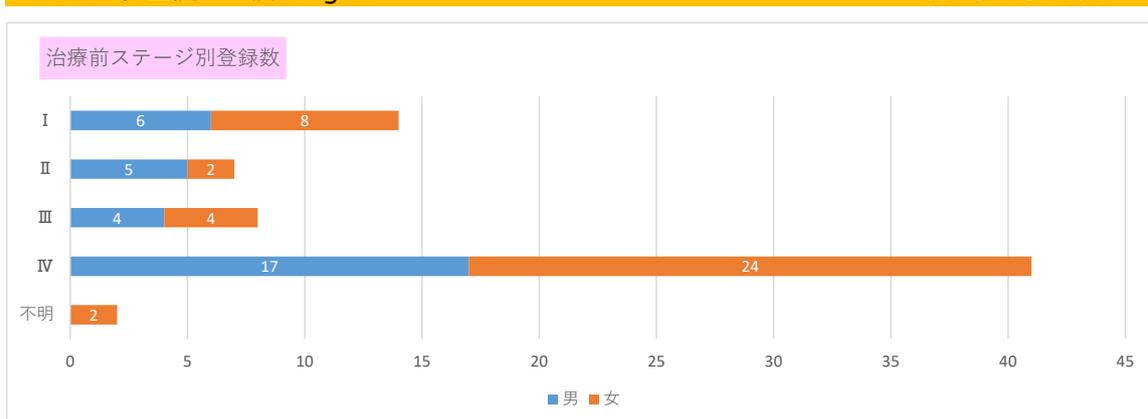


※TAE：肝動脈塞栓療法 RFA：ラジオ波焼灼術

肝がんは、男性は51件、女性は18件で総数は69件であり男性が女性の約2.8倍であった。  
 ステージ別ではⅠ期が最も多く、組織型では肝細胞癌が全体の75%を占め、次いで胆管癌が多かった。  
 治療方法は、「化学療法」と「TAEorRFA」の実施が全体の75%を占める結果となった。

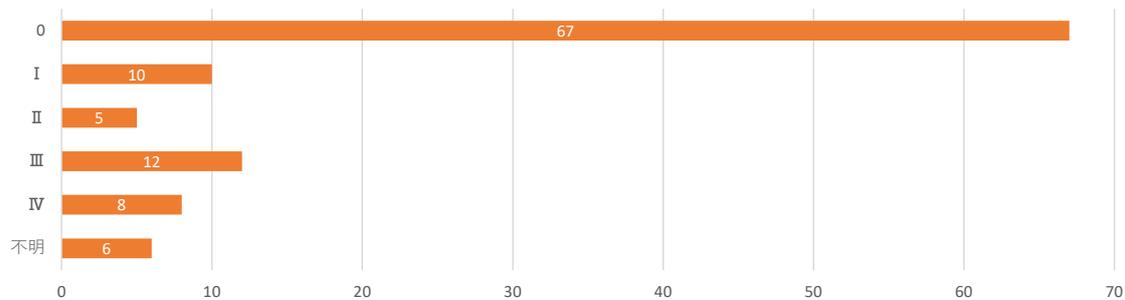
## 2021年症例 - 膵stage別 -

徳島大学病院

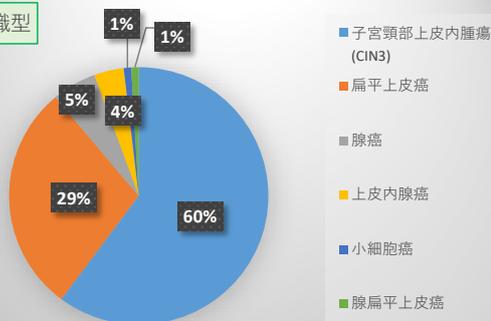


膵がんは、男性は32件、女性は40件で総数は72件であり、女性が僅かに多い結果であった。  
 ステージ別はⅣ期が圧倒的に多く、組織型では膵癌が全体の半数を占めている。治療方法は「化学療法」の実施が78%と最も多かった。

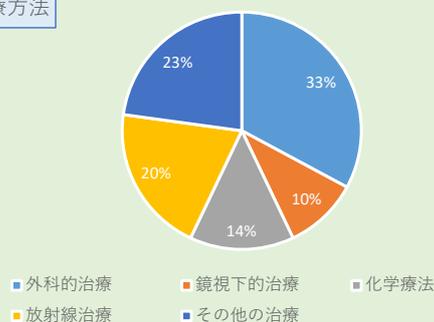
治療前ステージ別登録数



組織型



治療方法

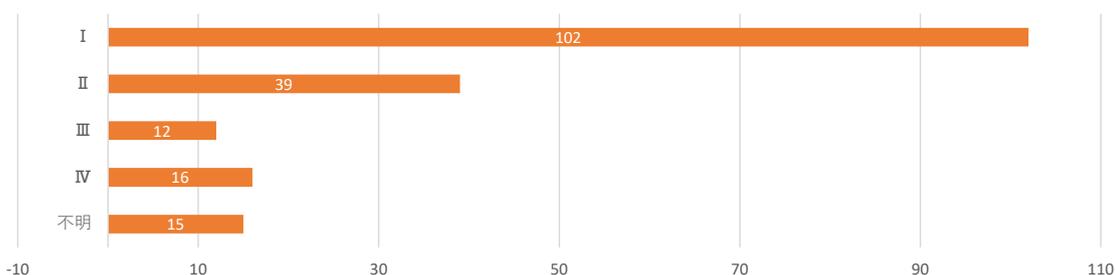


※その他の治療：LEEP(ループ式電気円錐切除法)+レーザー-蒸散、電気凝固等

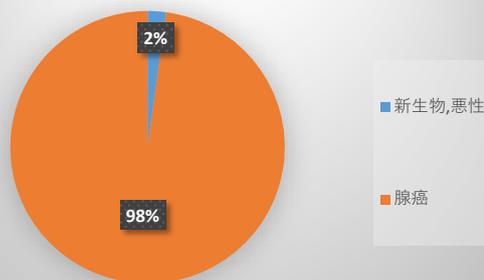
子宮頸がんは総数108件、ステージ別では0期が最も多かった。

組織型では子宮頸部上皮内腫瘍(CIN3)が全体の6割を占め、次いで扁平上皮癌の結果であった。治療方法は、手術では「外科的治療」が多く「放射線治療」と「その他の治療」のLEEP(ループ式電気円錐切除法)+レーザー-蒸散、電気凝固等についても各々2割程度実施されている。

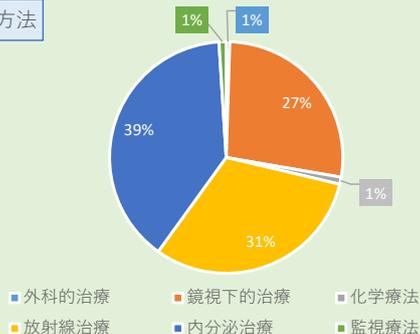
治療前ステージ別登録数



組織型



治療方法



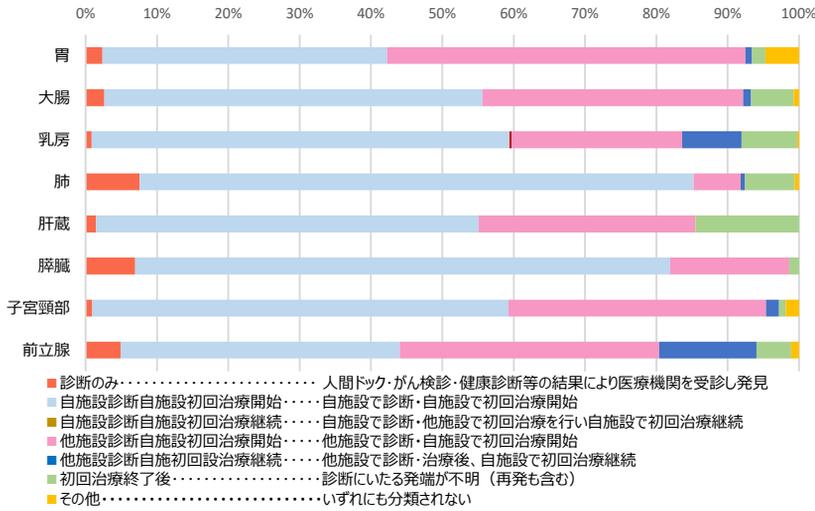
※監視療法：低リスク前立腺癌に対する無治療経過観察

前立腺がんは総数184件、ステージ別ではI期が最も多かった。

組織型は主に腺癌であり、治療方法は、手術では「鏡視下の治療」が主であり「放射線治療」と「内分泌治療（ホルモン療法）」も積極的に実施されている。

症例区分

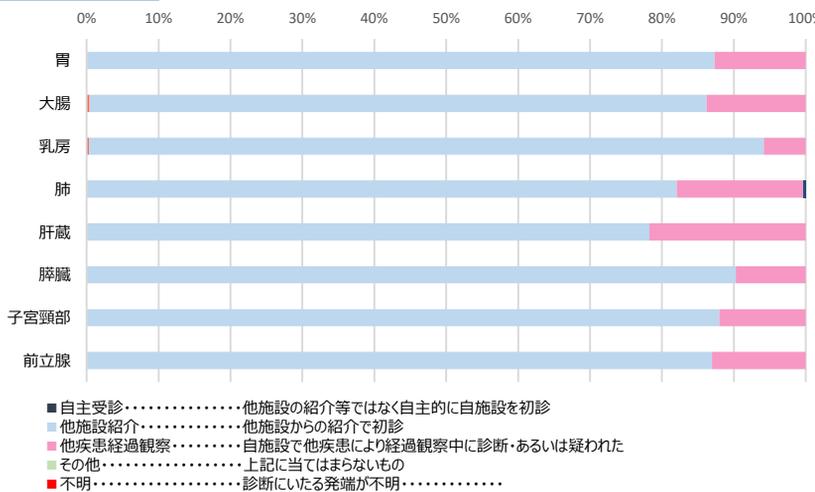
当該腫瘍の診断および初回治療の過程に、自施設でどのように関係したかを判断



	診断のみ	自施設診断自施設初回治療開始	自施設診断自施設初回治療継続	他施設診断自施設初回治療開始	他施設診断自施設初回治療継続	初回治療終了	その他
胃	4~6	85	0	107	1~3	4~6	10
大腸	7~9	142	0	98	1~3	16	1~3
乳房	1~3	211	1~3	86	30	28	1~3
肺	24	247	0	21	1~3	22	1~3
肝臓	1~3	37	0	21	0	10	0
膵臓	4~6	54	0	12	0	1~3	0
子宮頸部	1~3	63	0	39	1~3	1~2	1~3
前立腺	7~9	72	0	67	25	7~9	1~3

来院経路

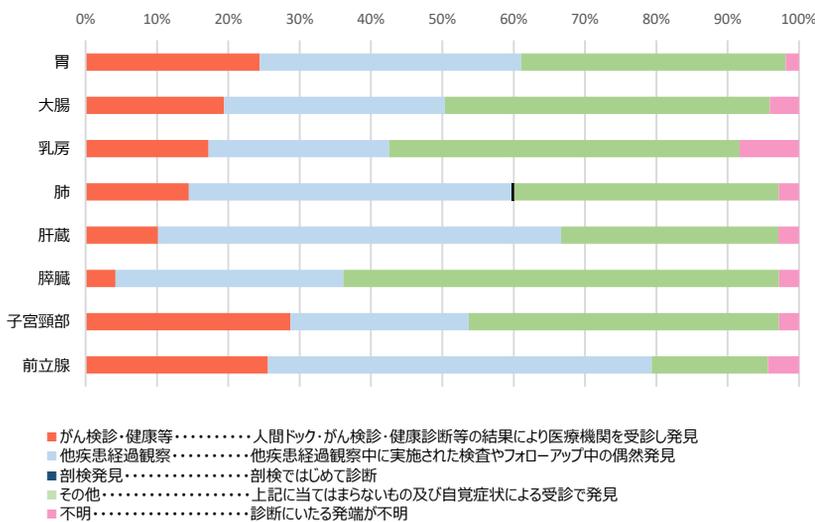
当該腫瘍の診断・治療のため、どのような経路によって自施設を受診したのか把握



	自主受診	他施設紹介	他疾患経過観察中	その他	不明
胃	0	186	27	0	0
大腸	1~3	230	37	0	0
乳房	1~3	338	21	0	0
肺	0	261	56	1~3	0
肝臓	0	54	15	0	0
膵臓	0	65	7~9	0	0
子宮頸部	0	95	13	0	0
前立腺	0	160	24	0	0

発見経緯

当該腫瘍が診断される発端となった状況の把握



	がん検診・健康等	他疾患経過観察	剖検発見	その他	不明
胃	52	78	0	79	4~6
大腸	52	83	0	122	11
乳房	62	91	0	177	30
肺	46	144	1~3	118	7~9
肝臓	7~9	39	0	21	1~3
子宮頸部	1~3	23	0	44	1~3
膵臓	31	27	0	47	1~3
前立腺	47	99	0	30	7~9

症例区分では、自施設診断・他施設診断ともに初回治療に関りがみられ、胃以外の部位において、自施設診断自施設初回治療開始例が多くなっている。乳房・前立腺は、他施設診断自施設治療継続例においてまとまった症例数があり、治療後の放射線治療の件数等が反映されていると考えられる。来院経路では他施設からの紹介が全体の8割強を占めている。発見経路では、早期発見につながる健診等での発見は全体数から見ると少なく、他疾患経過観察中・その他（自覚症状等）が多くなっている。